未来への誓い

神川町立神川中学校２年　　宮下　悠我

私は、産まれてすぐにＮＩＣＵ、いわゆる新生児集中治療室に入院したそうです。

予定よりも早く産まれてしまい、体重も少なく、すぐに入院が必要だった為です。また、肺に水が入っている疑いがあり、黄疸も出ていた為、しばらく集中的な治療が必要と判断されたそうです。

その時の写真を両親が残してくれており、少し大きくなってから見せてくれました。そこには、保育器の中で手の甲に点滴の針を刺した私が写っていました。また、周りには見たことのない医療機器がたくさん並んでいて、そこに入院するという事の深刻さを伝えていました。

これは最近になって聞いた話ですが、私が必ず助かるという保証がない中、両親は何も手に付かない状況だったそうです。また、母自身も私を産む前の数か月間、産科に入院していたため、その時の精神的な負担は相当なものだったようです。

その後、機会があり医療について調べていた時、ＮＩＣＵについての記事が目に留まりました。以前両親から聞いた私の話を思い出し、詳しく読み進めると、新生児医療の技術はかなり高度で、そのための投資も高額であることが分かりました。また、私の母のように出産前から入院し、その後、子供がＮＩＣＵに入院した場合、掛かる費用はかなり高額になる事を知りました。

私はその事実を知り、私が産まれた当時、両親には精神的な負担と同時に、かなりの経済的な負担があったのだと考えました。気になった私は、単刀直入にその時に掛かった費用について聞いてみました。すると、意外なことに入院や治療に掛かった費用は、自治体の助成制度や医療保険などによって大半が支給され、自己負担はさほど多くなかったという事でした。そして、その費用は税金によって支えられていることを教わりました。さらに、産まれてから現在まで私が病院にかかった際の医療費は、自治体の「こども医療費支給事業」により全額が支給されていることを知りました。

今までも学校の授業などで、様々な種類の税金が社会の根底を支えていることを学んできましたが、産まれてすぐに消えかけた自分の命が、多くの人たちが納める税金によって繋がれたことを知り、私は改めて税金のありがたさと大切さを実感しました。

私は将来、職業として医療の現場に携わることを目指しています。医療は税金で支えられている重要な社会保障制度の一つであることを、私は自分の経験を通して学ぶことが出来ました。今の私はまだ、税金に助けてもらう事ばかりですが、未来の私は、苦しんでいる人を助ける事で社会に貢献し、納税を通して世の中に恩返しをすることを誓います。